

神奈川県立座間支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立座間支援学校 第3回学校運営協議会	
開催日時	令和6年3月1日(金) 9:45~11:30	
開催場所	座間支援学校 南棟2階 会議室	
出席者	学校運営協議会委員7名 学校職員10名	
次回開催予定	令和6年5月13日(月) 9:45~11:30	
問い合わせ先	座間支援学校 副校長 横田寿光 電話 046-255-2253 FAX 046-252-5379	
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由
審議(会議)経過 【学校運営協議会】	<p>・学校長挨拶                      学校長：次年度以降4年間の本校のミッションを県よりいただいた。第2回学校運営協議会以降、次年度からの学校目標の設定に向けて、「WEで語ろう」と題し、子どもたち・保護者・教員で、私たちの学校とみんながとらえて語れるようフリートークの場を設定し取り組んできた。本日もWEで語らせていただきたい。</p> <p>・本日の流れ説明 学校                      〈協議〉                      会長：皆さんから意見を伺い今年度のまとめの会として進めたい。「WEで語ろう」で、30分ぐらい話したい。</p> <p>① 部会報告</p> <p>・切れ目ない支援部会では、就学前・就学中・卒業後それぞれの支援者と当事者として保護者に参加いただいた。次年度は、それぞれの内容について、各部会員の所属で取り組み、活動を共有することとした。本校では、卒業生のつどいに、卒業生の保護者と在校生の保護者や部会員がフリートークする場の設定を検討する予定。</p> <p>・防災部会 近隣エリアでできる防災連携について取り組んできた。次年度は引き続き、協働してできることを広げていく。能登半島地震を受け、実践的な防災訓練としていく。</p> <p>〈質問・意見〉                      会長：今後にどのようにつなげていくかの視点で意見を。今年度のポイントは？                      学校：切れ目ない支援部会では、フリートークが有効であったことを確認した。お互いが何に困っているのかをフリーに話す機会がない。人と人の結びつきが抜けていたのではないか。そこをメインに各所属で、当事者がお互いの声を聞ける場面を既存の取組の中に取り入れていくことからはじめたい。                      委員：担当者だけが大変にならないような工夫が必要である。                      委員：地域が純粋に、座間支援に何ができるのかなど考える機会にできたらよいと思う。多少は意見を言えるが、誰もが考えられるわけではない。方向性を見出せる会にしてもらったらよいと思う。                      会長：重要な意見であったと思う。みんなで、地域で作っていく学校、それが学校運営協議会の在り方である。学校が学校の発想だけで発信しても、学校以外の人は何を言わんとしているのかよくわからない。「学校は学校でやってよ。」となってしまう。                      委員：学校の内側以外の視点が大事だと思う。地域の方から、座間支援の生徒の活動を教えていただいた。今後も工夫しながら近隣校で取り組んでいきたい。地域の方の意見はとても大事である。防災部会では福祉機器展の発信がされ、とてもありがたかった。                      会長：日常的なつながり、相互評価になっているか、切れ目のない支援をどう考えるか、考える機会として「WEで語ろう」が機能するのではないか。                      学校：今やっていることがどうなのかフィードバックができる場として、重要な場であると確認した。</p>	

委員：我が子が卒業する保護者として、切れ目ない支援と聞くと、大きな期待をする。切れ目ない支援部会がいろいろ考えているが、保護者の具体的なアクションがない。PTA 役員をしていないと切れ目ない支援部会や学校運営協議会があることを知る機会がない。保護者も卒業後もボランティアなどで関わりたいと思う人もいる。保護者も加わるよう工夫をお願いしたい。

会長：部会でも傍聴席を設けたらどうか。また、部会に学校運営協議会委員が誰も入っていないので話が見えにくい。委員が部会にも参加するのが良いのではないか。保護者もいろいろやりたい気持ちはあるが、学校がやってくれるので任せてしまう。学校がかかえないで、巻き込んでいく方法を学校も考える必要があるのではないか。

## ② 学校運営

学校：学校評価について説明

《質問・意見》

委員：ICT の導入にあたり個別評価との連動や専門職の関わりはどのようになっているか。

学校：今までも個別評価に専門職は加わってチームで行っていた。ICT の導入についてもチームで検討していく。

委員：こどもたちに合わせた対応が重要である。

学校：さらに活用の活性化を図っていききたい。

会長：ICT の導入と活用に関して神奈川は遅れている。期待したい。

委員：一人ひとりに対応した計画の作成は難しい。「自分を好きになる」というワードが心に残る。良いところを見つける努力をされている。安心している。日常の業務に加えて一人一台端末での ICT 機器の活用。教員の負担が心配になった。アフターフォローが必要だと思った。

会長：重要な視点である。学校運営協議会の役割にもつながる。「教員だけでなくみんなで育てる」に変えていかねばならない。この会の本質になる。

令和5年度学校評価報告 承認

会長：今後意見の反映を求める。

学校：「WE で語ろう」の取組報告

《学校運営協議会版「WE で語ろう」》

委員：普段の活動が素晴らしい。理解できた。どんな子も接することができる学びの場を取り入れて欲しい。例えば放課後を利用したケアサポートの場、地域の方の参加ができるボッチャ会、不登校の集まり等。先生型には教育のコンダクターになって欲しい。チーム教育。地域で協力したい。

委員：わかりやすい報告と説明に学ぶことが多い。一人ひとりを丁寧にみていると感じる。今意見をまとめるのは難しい。後日お伝えしたい。自分を信じる力を育てるについて考えていきたい。皆さん無理をしないで回りを巻き込んで欲しい。

委員：取組に敬意を表する。それぞれの個性を生かせる支援の視点が大切。心の問題を大切にされる学校、見えないものが大切にされる学校が良い。

委員：様々な取組を知ることができた。評価が高いのに驚いた。取り組みのすばらしさと思う。交流に参加し、子どもたちの表情を見て取組が伝わってきた。勉強できた。ぜひ協力したい。

委員：学校の評価・意見の場に自分がいていいのかとの思いがあったが、この場があること自体が感謝である。自分のこどもは地域が育ててくれた。保護者の意識を変え、地域に出していく勇気が必要に思う。地域に出たことで急激に成長し無事に卒業できた。

会長：意見があれば来週いっぱい学校まで。

## ③ その他

学校：県の学校運営協議会委員アンケート回答の改めてお願いする。

学校：次年度の学校評価部会は、県により第三者評価の性格を合わせ持った組織となり有識者2名をメンバーに加えることとなる。次年度改めて相談する。

学校：次年度も3回を予定している。

・学校長挨拶

学校長：皆さんから学校だけで抱え込まないと、たくさんご意見をいただきました。めざすものを共

	<p>有していくことが、地域で子供を育てることにつながると思う。特別支援学校も変わっていかねばならない。海老名市はフルインクルージョン教育の研究が始まる。神奈川県を目指す方向ではあるが、まず、市町村で始まる。今後の特別支援学校の役割は何か考えていかねばならない。この会議の場が一層大切になると考えている。次年度も同じメンバーで引き続きお願いしたいと思っている。別途お願いさせていただく。</p> <p>閉会</p>
会議資料	<p>第3回学校運営協議会次第 令和5年度学校評価報告 令和5年度第3回学校運営協議会プレゼンテーション資料</p>